

2016年の新春を寿ぐ

会長 亀山 健太郎



新年明けましておめでとうございます。

関係諸機関の皆様、また、賛助会員の皆様、名誉顧問、参与の皆様、加盟団体、及び個人会員の皆様、さらには日頃より都岳連に対し様々なご支援をいただいている皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げ、旧年にまさるご支援とご鞭撻を謹んでお願い申し上げます。

さて、私共都岳連が公益法人の認証を得てから早くも3年目を迎えました。昨年5月には公益化後第2期の理事、監事が選任され、新体制での業務の運営と事業の展開が始まりました。特に、安全登山の普及、組織の強化、財務体質の改善の三つを都岳連の中長期のミッションとして皆様にお示めしし、組織をあげて取り組んでまいりました。ただ、取り組みは緒についたばかりとは言え、多くの課題に直面しております。特に、加盟団体、また、個人会員の減少による収入減や新事務所移転に伴う経常経費の増加、また、採算性に乏しい事業の見直しが不十分なこともあり、2015年度上半期は厳しい決算となっております。

私共は、こうした現状を踏まえ三役会や理事会、運営委員会等で収益増と支出減のためのアクションプランを検討、策定しました。「ピンチはチャンス」との言葉通り、今すぐにもできる経費の削減等はもちろん、2016年度予算案の編成については、これまで以上に厳しく査定を行うため作業を前倒しして昨年12月より行っております。

なお、2018年は、都岳連創立70周年の佳節の年となります。本年4月には、副会長を委員長とする創立70周年事業特別委員会を設置し、祝賀事業の内容などを検討して参ります。検討結果については、ホームページなどで皆様にもお知らせいたします。祝賀会などの事業は再来年ではありますが、多くの皆様と共に心から祝い喜びあえるものになりたいと思っております。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が皆様にとって明るく希望に満ちたものとなりますことをお祈り申し上げ、新春のごあいさつとさせていただきます。